

2. 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

神戸親和大学

3つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大学の教育理念を踏まえ、どのような力を身に付ければ学位を授与するのかを定める基本的な方針。

教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針。

入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

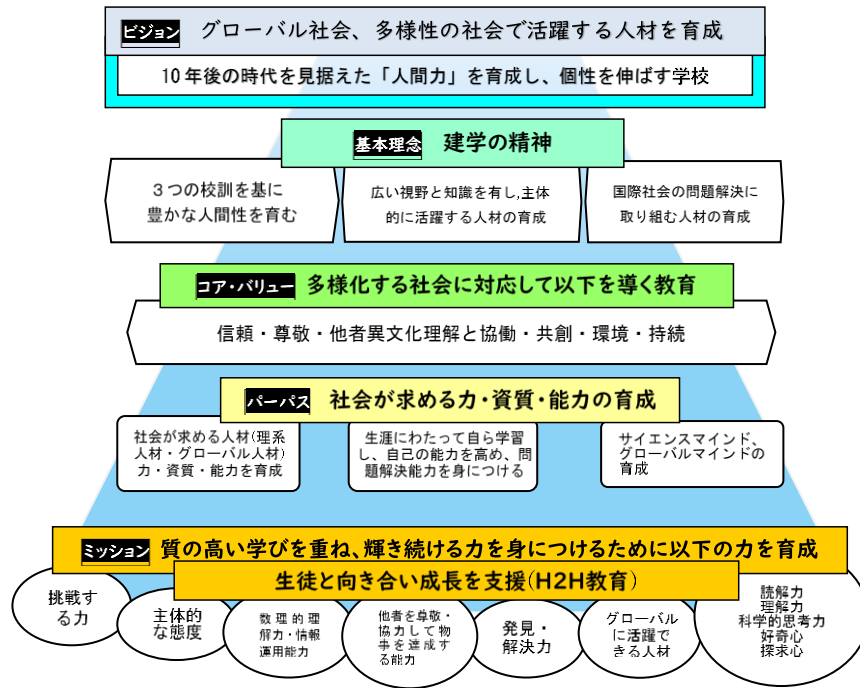
各学部学科の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、入学者を受け入れるための基本的な方針。

本学の3つの方針については、ホームページで公開している。

<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/policy/>

親和女子高等学校・親和中学校

年度初旬にコロナ禍が明け、教育活動は通常に戻った。ここ数年間の空白を取り戻すべく、活発に教育活動が推進された中で、2024年度からの教育改革（新コース設置等）に向けた基盤整備とその準備のために、様々な事業を2023年度に実施した。建学の精神（教育理念）を基に、パーパス、コア・バリューを達成するための様々な力の育成を、ミッションとして取り組んだ。生徒の活動を活性化させることはもとより、教員全体で本校の核となる「探究活動」の裾野を広げるとともに、Sコースの「理数探究」授業を充実させて「SSH認定校」を目指すため、「探究推進部」を中心に生徒を支援した。



また、2024年度から立ち上がる3つの新コース設立に向けて、教員が各種委員会で議論、協議して創り上げたミッション&ポリシーを以下に記す。

2024年度中学新コースのミッション&ポリシー制定

<スーパーサイエンス>

1) コースミッション

本校の人間性尊重教育・理系教育の伝統を基に、サイエンスマインドとグローバルマインドを育み、高度で先導的な理数探究教育を実施することで、卓越した科学系リーダーとしての市民的資質・能力を育成すると共に、難関大学の科学系諸分野への進路を保障する。

2) コースポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

卓越した科学系リーダーとしての市民的資質・能力を育成すると共に、難関国公立大学の理工系・生命科学系・医療系・生活科学系など科学系諸分野への進路を実現する。

② カリキュラム・ポリシー

- ・ 中学では、サイエンスマインドとグローバルマインドを育むために、キャリア形成教育に注力し、科学系教科・科目とプログラム、語学、探究学習を重視した教育課程を編成する。
- ・ 高校では、サイエンスマインドとグローバルマインドの深化を図るために、理数探究をはじめとする文理融合的で先導的な科学系教育、語学、探究学習を重視すると共に、難関大学への進路を保障する教育課程を編成する。
- ・ 学校行事や課外活動、海外研修を通して、対話力を身につけ、主体性と協働意識、他者尊重と社会貢献の精神など、人間性を涵養する教育を推進する。

③ アドミッション・ポリシー

基本的学力を有すると共に、科学的分野への関心・意欲が高く、主体的に学習や学校生活に臨む意欲のある生徒を募集する。

<スチーム探究>

1) コースミッション

本校の人間性尊重教育・理系教育の伝統を基に、サイエンスマインドとグローバルマインドを育み、STEAM探究教育を実施することで、科学系リーダーとしての市民的資質・能力を育成すると共に、国公立大学をはじめとする科学系諸分野への進路を保障する。

2) コースポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

科学系リーダーとしての市民的資質・能力を育成すると共に、国公立大学をはじめ、理工系・生命科学系・医療系・生活科学系など幅広い科学系諸分野への進路を実現する。

②カリキュラム・ポリシー

- ・ 中学では、グローバルサイエンスマインドとグローバルマインドを育むために、キャリア形成教育に注力し、STEAM探究の基礎、語学、探究学習を重視し、教科バランスの取れた教育課程を編成する。
- ・ 高校では、サイエンスマインドとグローバルマインドの深化を図るために、科学系教科・科目、STEAM探究、語学、探究学習を重視し、国公立大学をはじめとする科学系諸分野への進路を保障する教育課程を編成する。
- ・ 学校行事や課外活動、海外研修を通して、対話力を身につけ、主体性と協働意識、他者尊重と社会貢献の精神など、人間性を涵養する教育を推進する。

③アドミッション・ポリシー

基本的学力を有すると共に、科学的分野への関心・興味があり、主体的に学習や学校生活に臨む意欲のある生徒を募集する。

<グローバル探究>

1) コースミッション

本校の人間性尊重教育・グローバル（語学、国際）教育の伝統を基に、グローバルマインドとサイエンスマインドを育み、グローバル探究教育を実施することで、グローバル系リーダーとしての市民的資質・能力を育むと共に、国公立、難関私立大学など、人文・社会科学分野への進路を保障する。

2) コースポリシー

①グラデュエーション・ポリシー

グローバル系リーダーとしての市民的資質・能力を育成すると共に、国公立大学、難関私立大学をはじめ、国際・文・法・経済・社会系など人文・社会科学系各分野への進路を実現する。

②カリキュラム・ポリシー

- ・ 中学では、グローバルマインドとサイエンスマインドを育むために、キャリア形成教育に注力し、グローバル探究教育の基礎、国際理解、語学、探究学習を重視し、教科バランスの取れた教育課程を編成する。
- ・ 高校では、グローバルマインドとサイエンスマインドの深化を図るために、国際理解、語学、探究学習、人文・社会科学系教科・科目に重点を置いた教育を実施し、国公立、難関私立大学など、人文・社会科学系諸分野への進路を保障する教育課程を編成する。また、海外への留学制度を整備すると共に、英語等の資格取得教育を実施する。
- ・ 学校行事や課外活動、海外研修を通して、対話力を身につけ、主体性と協働意識、他者尊重と社会貢献の精神など、人間性を涵養する教育を推進する。

③アドミッション・ポリシー

基本的学力を有すると共に、グローバル分野への関心・意欲が高く、主体的に学習や学校生活に臨む意欲のある生徒を募集する。

(2) 中期的な計画(教学・人事・施設・財務等)及び事業計画の進捗・達成状況

①第3次10年構想5ヵ年計画の検証

神戸親和大学

以下、第3次10年構想5ヵ年計画の検証を行う。

第3次10年構想5ヵ年計画項目	重点項目	検証評価
1. 理念・目的に関する目標・計画 (1) 理念・目的を検証し、大学の施策に反映させる。 (2) 理念・目的を達成するための事業を計画,実施する。	(1) 大学の設置理念を実現する方策を検討し大学の将来構想等に反映 (2) SHINWA VISION の実現に向け	共学への移行に伴い、「神戸親和大学」としてビジョン、基本理念、コア・バリュー、パーパス（存在意義）、ミッションを新たに定め、周知・公表し、教職

(3) 理念・目的を周知・公表し、関係者で共有する。	て具体的な実行計画を策定する。 (3) 大学の設置理念、校訓について、学長講話や教職員研修などを通じて、繰り返し説明し、学生、教職員の理解を深める	員等関係者で共有した(図1.)。学生への校訓等の周知は、基礎演習等の授業を通して周知している。また、パーパス及びビジョンの実現のために教育改革、カリキュラム改革を計画し、実施した。
----------------------------	--	--

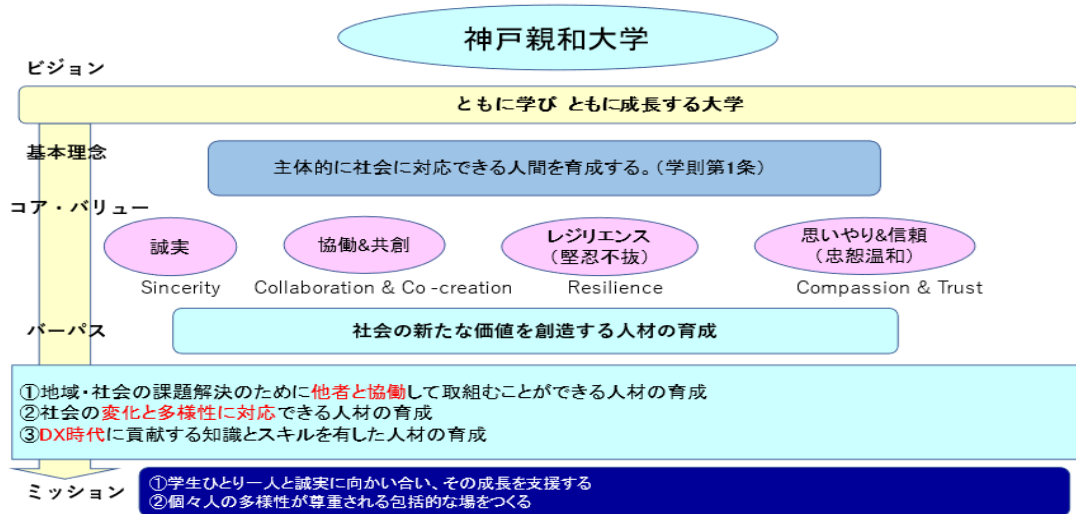


図1. 神戸親和大学のビジョン、パーパス、ミッションなど

第3次10年構想5ヵ年計画項目	重点計画項目	検証評価
2. 教育課程に関する目標・計画 (1) ディプロマポリシーを検証し、必要に応じ改正する。	学則、ディプロマポリシーに則り学生の育成ができたかどうかアセスメントポリシーにより検証。	アセスメントポリシーを策定し、ディプロマポリシーを検証した。
(2) カリキュラムポリシーを検証し、必要に応じ改正する。	ディプロマポリシーとの関連でカリキュラムポリシーを検証。社会の動向に応じてカリキュラムを見直す。	共学への移行に際してカリキュラム改革を実施した。
(3) 時代の変化に対応して教育課程の改革・改善を図る。	<p>共通教育改革の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> * 実践から学ぶ「社会の未来を創る」プログラム(2023年度より)の構築(インターンシップ、ボランティア、プロジェクト活動のプログラム化)。 * 企業との連携、協働によるプログラムの創出。 * 英語等運用能力、情報活用能力、論理的文章構成力の向上を目指したカリキュラム構成。 * 「情報リテラシー」科目の充実(3科目追加)。 * 各学科におけるカリキュラムの充実とカリキュラムの体系化。 * 国際文化学科に新たなコース「情報コミュニケーションコース」を設置。 	<p>共通教育を改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実践教育プログラム『SAIL』の実施、基準を満たす活動を単位化、優秀な実践活動を年度末に表彰した。 ② 株式会社フェリシモ等企業との連携プロジェクトの実施。 ③ 新たなキャリア教育「ワーク&ライフデザインI・II」を開始。本クラスの有志によるプレゼンテーション能力向上のためのグループ「親和PLEC」活動開始。 ④ 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」(リテラシーレベル)認定制度の認定を受けた。 ⑤ 高大連携科目「教育」、「探究」で高等学校との協働授業を開始。

(4) 最新技術を活用して教育方法の改革・改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> *学生のICT活用能力の向上や学びの深化を目的とし、講義におけるICT活用の推進。 *授業内外のデジタル化の推進 *教育効果の高いオンライン授業の開発。 	<p>①PC 必携化に伴い、講義内でのICT活用と授業内外のペーパーレス化、オンライン化を促進した。</p> <p>②デジタル化を推進するオンラインコア科目を設定。すべてをオンラインで行う授業よりは、一部対面授業で行う授業が多かった。オンラインと対面の両方のメリットを活かすブレンド型のニーズが高い。</p>
(5) 大学院教育の充実。	*公認心理師、臨床心理士合格者数の増加のための施策を実施。	受験のための対策講座を実施。
(6) 学生の適正な成績評価を可能とするシステムの構築。	<ul style="list-style-type: none"> *ポートフォリオの構築、学修成果の可視化。 *ルーブリックによる評価の導入と検証。 	ルーブリックによる評価を導入し、学生に周知している。 ポートフォリオの構築のための学修システムの導入決定。
(7) 通信教育部カリキュラムに関する改革。	時代の変化に対応した通信教育カリキュラムの構築。	通信教育部学生の増加を目的とし、リカレント教育を組み合わせた通信教育の改革を開始。
(8) 産学連携における教育の推進。	<p>連携企業との授業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> *プロジェクトベースドラーニング(PBL)授業の更なる展開。 	地域企業(早駒運輸、フェリシモ等)とのPBLプロジェクトを実施し、商品化及び広報活動の実践に取り組んだ。
<p>3. 教育研究組織の改編・拡充に関する目標・計画</p> <p>(1) 時代の変化に対応して学部・学科の改組・転換を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> *学部・学科の改組・転換、学科定員の再検討、大学院教育の充実などの計画の検証。 *発達教育学部の教育学部への名称変更(2022年度より)。 *国際文化学科情報コミュニケーションコース開設(2022年度より)。 	2025年より学科定員の変更(国際文化学科48名、教育学科180名、スポーツ教育学科87名、計375名、教育学科3年次編入定員20名)。教育学科の中高免許の拡充(英語、数学、国語の中高1種免許取得可能に)を予定。
(2) 地域における学び・研究のプラットフォームとして機能する。	大学が地域や大学関係者の学びや研究の拠点となるよう体制の整備。	日本・OECD共同研究に参画し、カナダの研究者・教育者とも協働し、本学が探究・評価に関わるワークショップの実施、ブックレットの作成を行った。また、高大連携による「探究」カリキュラム開発研究チームとの探究学習の研究会を実施した。
(3) 大学のグローバル化を目指した組織の充実を図る。	<p>海外協定校との連携拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> *2022年9月から長春師範高等短期大学との連携プロジェクト「幼児教育における共同教育連携プロジェクト」(教員派遣)の実施。 *オンライン海外研修の実施。 *海外留学、研修、海外インターンシップの充実。 *国際文化学科国際コミュニ 	<p>①長春師範高等短期大学との連携プロジェクトの開始、教員派遣。</p> <p>②「海外心理学研修」「特別派遣留学(カナダ)」の実施。</p> <p>③国際コミュニケーションコースの海外留学、1・2期生はアイルランドヨーク大学で、3期は西オーストラリア大学で実施。</p>

	ケーションコースの1年間 海外留学の実施。	
(4) 教育研究支援のための施策の充実を図る。	他大学、自治体、企業との連携による教育・研究の支援。	①日本・OECD 共同研究に参画し、教員・学生がプロジェクトの運営・実施に関わった。また、高大連携による「探究」カリキュラム開発研究チームの発足などを展開した。 ②神戸学院大学との連携協定に基づき、学生・教員交流などを行った。 ③姫路市高浜小学校生徒と児童教育学科学生とのオンライン交流の実施。 ④茨城キリスト教大学との海外研修共同実施に係る協定を締結し、「エアライン演習」科目を設けた。 ⑤東京学芸大学、TFJ と協働し本学通信教育部を活用した教育現場への人材派遣リカレント事業に参画。 ⑥実践教育プログラム『SAIL』の学生への周知徹底を目指し、年度末に優秀賞の表彰を実施。
4. 教員・教育組織に関する目標・計画（教員人材確保、FD） (1) 教員組織の編成方針を見直し、策定する。	* 教員編成方針を見直し、改善し、長期計画及び改組転換計画に基づいた採用と教育課程の改革に対応した教員組織の検証と見直し。 * 女性教員の割合を50%に近くように努める。実務家教員の割合は30%を目途。教員の年齢構成の是正、50歳以下の教員の割合を増加させるよう努める。	教員組織の検証、見直しについて、中長期人事計画の策定には至っておらず、今後の課題。教員の年齢構成や男女比等の検討は引き続き必要。
(2) 教員の教育力の向上システムの充実を図る。	FD 等による教育方法の改善により教員組織を活性化。	FD 等の実施により、組織の活性化に努めた。
(3) 教員業績評価の充実を図る。	教員業績評価の処遇への反映。	教員活動評価の評価点の見直し、改善を図り、処遇への反映を目指した。
5. 学生の支援に関する目標・計画 (1) キャリア支援体制を充実する。	* コロナ禍における不況に起因する就職難への支援。 * 企業と連携した多様なインターンシップの展開。 * 出口イメージを明確化したキャリア支援とその広報新たな就職支援イベントの実施（親和公務員塾など）。 * コロナ禍における WEB による支援体制の構築。 * 企業との連携の強化。 * 留学生の就職支援の拡充。	①コロナ禍後も WEB と対面での就職活動は続いており、Zoom と対面の両方での就職支援を継続している。また、「インターンシップ」は、三省合意により取扱いが変わったことで、実施を見合わせる企業も多く、企業と連携したインターンシップの実施が難しい状況である。しかし、就職ナビサイトを利用して短期間のオープンカンパニー、キャリア教育を実施する企業は増えており、企業と接する機会は増加している。 ②就職支援 【キャリア教育の充実】 2023 年度入学生より、1・2年次の必修

		<p>科目に「ワーク&ライフデザインⅠ・Ⅱ」を新設し、授業担当者と連携することにより、低学年からの職業観の醸成に努めている。また、課外活動としてプレゼンテーションスキルを学び合うグループ「SHINWA PLEC」が活動を開始し、キャリア支援活動の一環としてサポートをした。また、オープンキャンパスでの広報活動参加や PLEC の発表会で活動成果を披露した。</p> <p>【留学生の就職支援の強化】 留学生対象の就職ガイダンスを国際・留学センターと連携して実施し、就職希望者への個別相談等の対応をした。</p>
(2) 学生生活支援体制を充実する。	<p>* 学生生活支援体制の検証と改善。 * 新たな給付型奨学金を導入。 * 障がいのある学生の支援策の充実。</p>	<p>① 学生生活支援として、ラーニングコモンズ 1 階に自動販売機の設置など学生の憩いの場としての整備を実施。 ② 奨学金制度の拡充。 【学費支援】 ・ 学費支援制度は、免除・貸与ともに毎年選考を行い、執行している。 ・ 授業料免除奨学金→当該年度の授業料を免除する。毎年約 5 名を採用している。 ・ 授業料貸与奨学金→当該年度の授業料を貸与する。卒業後に貸与年数に応じて返還してもらう。毎年 10 名を採用している。 【社会・文化・スポーツ分野及び学業における優秀な学生の表彰】 神戸親和女子大学奨励奨学金規程に基づき、社会・文化・スポーツ分野において優秀な成績を残した学生を表彰している。また、学長賞として、GPA の上位者及び、TOEIC スコア 700 点以上の者に対して、表彰を行っている。 【給付型奨学金（教員、公務員をめざす学生）の設置】 ③ 特別に支援を必要とする学生の支援。 ・ 障がいのある学生支援検討部会を学内に設置し、種々の問題に対応している。 ・ 具体的には、対象学生への面談や事後支援、またメンバー間の定期的な情報共有の機会を行っている。</p>
(3) 学生の健康管理体制を充実する。	学生の健康管理体制の検証と改善。学生相談体制の充実。	学生相談体制の充実、留学学生への日本からの Zoom 相談実施。
(4) 課外活動支援体制を充実する。	<p>* 課外活動支援体制の検証と改善。 * 強化スポーツクラブの充実。</p>	共学への移行に伴い、男子学生の強化クラブを 4 クラブ設置。同時に同好会からクラブ昇格への手続き等の簡易化を実施。
<p>6. 学生の受入れ（入試）の実施に関する目標・計画</p> <p>(1) 入試制度の改革・改善、情報提供の充実を図る。</p>	<p>* 共学化、校名変更に対応した多様な広報活動。 * 入学者選抜方法の見直し・改</p>	<p>① 様々な広報戦略により共学への移行を周知徹底した。 ② 英語外部試験制度を新しく導入する</p>

	<p>善など入試制度の改革・改善・簡素化及び、受験生への情報提供の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 入学定員1.1倍の学生の確保。 * 2024年度には目標在籍者数170人の留学生の受け入れ。 * 入試データの分析と有効活用。 * 兵庫県内を中心とした募集活動及び認知力強化。 * アドミッションコミュニケーターとの連携強化。 * コロナ禍における入学試験の在り方の検討。 	<p>とともに改善を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③2023年度入試では、467名（男子159名、女子308名、入学定員の1.2倍以上）の学生が入学し、2024年度入試においても同程度の入学生数となった。2024年度入学の男子学生の割合は4割程度。 ④2024年度に全学で170名の留学生の受け入れを目指し、2024年度は40名以上の留学生（大学院、編入学試験を含む）を受け入れることとなった。 ⑤入試データ（学生の出身地、出身高校）の分析により募集対策に活用した。 ⑥兵庫県からの入学者は80-85%に及び、募集活動を集中的に行った。 ⑦アドミッションコミュニケーターの研修会を行い、連携を強化した。 ⑧アドミッションポリシーの明確化と周知徹底。 教学マネジメント会議でディプロマポリシー、カリキュラムポリシーとの整合性に留意しアドミッションポリシーを定め、Webページや大学案内、入学試験要項等で受験生に周知徹底を図った。また、男女共学化に伴いアドミッションポリシーの見直しを行った。 ⑨オンライン入試 コロナ禍の影響を鑑み、留学生入試は入国（中国から日本）できない受験生を対象に一部ではあるが「オンライン入試」を行った。実施内容にやや課題が残るが5名程度の出願者に対して「小論文」「面接」の受験が実施できた。入学にも繋がっている。
<p>(2) 多様な広報活動を展開し、募集活動の強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 学科ごとの計画的、戦略的な広報活動の充実と展開。 * 出口イメージを明確にした発信（親和保育者養成塾、親和公務員塾等）。 * 高大連携としての継続的な高校出前授業や教育プログラムの提供。 * 親和女子高等学校との高大連携プログラムの開始（2023年度より）。 * 「先生になるなら、親和！」の再PR。 * SNSを活用した広報の展開。 * 協定校、スポーツ協定校への学生募集活動の強化・拡充の徹底。 * 高校訪問の成果・課題の検証と改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ①高大連携プログラム、特別連携協定校へのプログラム提供などを実施した。2024年度開始の親和女子高等学校との高大連携プログラムの準備。 ②「先生になるなら親和！」の再PR。 ③SNSを利用した広報を実施している。 ④高校訪問の成果の検証については入試結果データから検証し、次年度の訪問に活用した。
<p>7. 教育研究環境の整備に関する目標・計画</p>		

<p>(1) 学生の成長を促す教育研究環境等の整備・拡充を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 学生の成長を最大限支援するよう教育研究環境等を整備・拡充。 * 電子資料を含めた図書館資料の拡充。 * 学生の ICT 活用能力を向上、学びの深化を目的とし、必携パソコンの利用環境の整備、ネットワークの整備・増強、教室環境の整備・拡充。 * 学園デジタル教育推進事業。 * ラーニングコモンズの利用拡大。 * 共学化に対応した環境の整備。 * 新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底・充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学生の ICT 活用能力の向上をめざし、パソコンの利用環境の整備、ネットワークの整備・増強を行った。Wi-Fi 環境は格段に良くなった。 ②「英語なんでも相談室」、英語多読本活用イベント「しんわ洋書の森スタンブラリー」「ICT スキルアップ講座」「情報検索講座」などを開催し、学生達にとって、語学力、ICT 活用能力向上の支援の場として定着することを目指している。 ③学園内ワークフローの利用が定着した。大学における各課学生提出書類の電子化の推進と支援を行った。 ④共学化に対応した環境の整備、トイレ、更衣室、保健室等を整備した。
<p>(2) 地域貢献、大学スポーツの振興を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * スポーツセンターを拠点とした大学スポーツの振興、地域貢献、地域連携センターによる地域貢献事業の展開。 * 共学化に対応したスポーツクラブの整備。 	<p>共学への移行に対応したスポーツクラブを整備した。</p>
<p>(3) 世界基準の教員養成拠点として基盤強化を図る。</p>	<p>世界最先端の大学教育学部・附属校園と教育・研究に関するネットワークの構築。</p>	<p>OECD 共同研究の一環で、トロント大学付属 JICS と教員養成における「探究学習」に関連する協働研究を行い、2023 年度は 2 回のワークショップ、ブックレットの作成に結実している。</p>
<p>(4) グローバル化に対応できる国際人育成のための教育環境を創出する。</p>	<p>国際人育成のための教育環境の整備（留学生との交流を含む）。</p>	<p>日本・OECD 共同研究に参画し、教員・学生がプロジェクトの運営・実施に関わり、国内外の学生や研究者、教員とのネットワークを構築した。教員を目指す学生が OECD 本体の学生グループ INFINITY に参画し、未来の教育について自国・他国の学生達と連携し事業を実施した。</p>
<p>(5) 大学において研究倫理遵守の取組を進める。</p>	<p>規程に則り研究倫理遵守の取組を遂行、再確認。</p>	<p>研究倫理委員会や研修において取り組んだ。</p>
<p>8. 社会連携・社会貢献に関する目標・計画</p> <p>(1) 自治体、企業、NPO との連携・協働を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 自治体、企業、NPO、学校との連携・協働を推進する学内体制の強化。 * オンラインを利用した遠隔地との連携・協働。 神戸市北区、神戸電鉄、親和スポーツネットとの地域貢献事業の協力実施（子育て支援）。 * しまわの村との連携に基づく地域貢献活動。 * 姫路ヴィクトリーナ、フェリシモ、早駒運輸、アンファーなどとの企業連携事業の展開。 	<ul style="list-style-type: none"> ①神戸市北区等自治体や企業との連携協定を勧めた。 ②オンラインを利用した姫路市の小学生との交流、子ども食堂での交流を児童教育学科で開始した。 ③地域貢献事業が復活し、学生の参加が増加し始めた。 ④フェリシモ、早駒運輸、アンファー、姫路ヴィクトリーナ、楽天モバイルなどとの企業連携事業を実施した。
<p>(2) 地域住民の生涯学習機関としての機能を拡充する。</p>	<p>公開講座やリカレント教育の展開により、地域住民の生涯学習機関としての機能の拡充。</p>	<p>公開講座やリカレント教育を実施した。</p>

<p>(3) 高等教育機関としての機能強化を図るため、大学間連携を推進する。</p>	<p>* 海外の大学も含め国内外大学間連携の推進・強化。 * 大学間教育連携プログラムの充実（科目等履修制度を含む）。</p>	<p>大学間教育連携プログラムはコンソーシアム兵庫神戸の事業で本学も参画した。2023年度に茨城キリスト教大学と海外研修・演習の共同開催に係る協定を締結した。さらに2025年度開始を見据えて開智国際大学との教育連携プロジェクトの準備を開始した。</p>
<p>9. 大学の運営に関する目標・計画 (1) 機動的な大学運営ができるようPDCA実施体制により大学運営の改善改革を図る。</p>	<p>運営組織を検証し、ガバナンス体制を強化・改善。委員会の整理・合理化。</p>	<p>全学内部質保証推進会議を立ち上げ、PDCA実施体制による機動的な大学運営を目指している。</p>
<p>(2) 適正な教職員数の確保を図る。</p>	<p>適正な教職員数と人件費支出計画の策定。</p>	<p>適正な教員数の確保について計画的に人件費比率を見据えながら採用人事を進めた。</p>
<p>(3) 計画的かつ機動的な広報を行う。</p>	<p>広報に関する方針を策定し、機動的な広報の展開。</p>	<p>広報戦略室を学長の下に設置し、広報室課長、広報アドバイザーを中心に機動的な広報戦略を展開した。</p>
<p>(4) 教職員の資質向上を図るため研修を充実する。</p>	<p>教職員研修の計画的実施。</p>	<p>FD、SD、教職員研修会等を実施。</p>
<p>(5) 大学の運営を支える事務組織を整備する。</p>	<p>事務組織の検証と改善。</p>	<p>縦割りにならないよう柔軟な事務組織構築を目指した。</p>
<p>(6) 人権および個人情報保護の対策を強化する。</p>	<p>教職員の人権および個人情報保護に関する体制の検証と改善。</p>	<p>人権および個人情報保護に関する研修、およびそれらが阻害された場合の迅速な対応を取るようにした。個人情報保護について、社会の変化に対応すべき、教職員への情報提供などを実施した。</p>
<p>10. 大学の財務に関する目標・計画</p>		

<p>(1) 安定的な財務運営を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 的確な見通しに基づく財政計画の策定。 * 財務関係比率の改善 (人件費比率の減少等)。 * 大学の運営に必要な財政基盤の確立。 * 寄附金募集活動の強化。 * 研究資金等の外部資金を獲得。 	<p>①財政計画に基づいて安定的な財務運営を図るために、学生確保と支出抑制により財政基盤の確立を目指した。合わせて、寄附金募集活動を実施した。</p> <p>②外部資金に関する情報公開及び科研費申請にかかる学内説明会を実施し、外部資金獲得のための支援を実施している。</p> <p>③財務強化戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> * 3つの目標の計画的達成 (事業活動収差額比率・人件費比率・教育研究費比率) <p>2024 年度当初予算の事業活動収差額比率は大学単独で△0.18%、人件費比率は 48.9%、教育研究費比率については 42.4%であり、2013 年度 (25.0%) との比較で 17.4%改善した。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 事業と予算の「選択と集中」の実施。 <p>予算編成については、理事長から示達される予算編成方針に基づき事業担当部署が予算申請書を作成し、学長によるヒアリング・事前相談を経て、10年構想5ヵ年計画を達成するうえで重要と考えられる事業に重点配分するよう配慮し、予算原案としてまとめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 教職員の経営感覚の醸成 <p>職員研修等において、法人より財政状況を説明するとともに、理事長講話、研修講演においても財政についてのテーマを取り上げ、大学執行部の教員に対しても決算報告の説明を行い経営感覚の醸成に努めている。</p>
<p>11. 内部質保証の体制に関する目標・計画</p> <p>(1) 社会への説明責任としての内部質保証のための体制を整備する。</p>	<p>内部質保証のための体制整備。</p>	<p>全学内部質保証推進会議を立ち上げ、PDCA 実施体制による機動的な大学運営を目指している。</p>
<p>12. 同窓会との連携に関する目標・計画</p> <p>(1) 同窓会との連携強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 同窓生相互のネットワーク強化。 * 同窓会との定期的な連絡会の開催。 * 同窓生の生涯学習の機会強化。 * 同窓生の在学学生へのキャリア支援。 	<p>2023 年 11 月 3 日、すずらん会と共催で同窓会を開催した。参加者へのアンケート調査などから今後のすずらん会組織の拡充と支部会設置についての貴重な情報を得ることができた。</p>

親和女子高等学校・親和中学校

以下、第3次 10 年構想 5 ヵ年計画の検証を行う。

第3次 10 年構想 5 ヵ年計画項目	重点項目	検証評価
<p>1. 教育内容</p> <p>(1) 教育課程及びシラバスの見直し</p>	<p>①新学習指導要領に基づく教育課程の編成</p>	<p>①達成できた</p> <p>②シラバスは作成しているが、内容の</p>

	②新学習指導要領に基づくシラバスの作成	適切性の確認、及び公表はできていない。
(2) 新時代を生き抜く力を育む教育の推進	①「探究学習」の充実 ② 授業改善の推進 ③ICT 機器を活用した授業推進 ④思考力・判断力・表現力・主体性・多様性・協働性の育成 ⑤多様な能力を伸ばす教育システムの構築 ⑥総合進学コース一層の特色化	①探究推進部を置き対象学年を全学年に拡大、他校との合同発表会、甲南大学との連携も推進した。 ②授業評価アンケートを実施している程度に留まっており、組織的に改善に向けた対応ができていない。 ③タブレットを活用した授業、課題配信等、活用を推進できた。ロイロノートなどの学習アプリも活用が定着した。 ④探究活動により環境は整った。授業を実施する教員のファシリテート力を伸ばす必要がある。 ⑤ハイレベルゼミ（放課後学習）・親和ゼミを開講した。今後は個別に相談ができる放課後学習を整備していく。 ⑥キャリアノートによるキャリア教育を計画した。検証はできていない。
2. 教員組織・教育研究支援 (1) 人件費の抑制を踏まえた教員の人事計画	①新コース等を踏まえた今後の教員採用計画の策定 ②長期採用計画の策定	①生徒数の減少により抜本的な見直しが必要である。 ②学校の将来構想と連動し策定する必要がある。
(2) 校務分掌の見直し	①各種委員会の再編 ②その他	①部の人員配置が脆弱であることから委員会に頼ることが多くなっている。学年担任と分掌の兼務、部人員の学年サポートを整備する。委員会を常設と必要時と振り分け整理する。 ②新コースにコース長を置く。
(3) 校長のリーダーシップ	①副校長、教頭の業務の明確化 ②管理職及び部長、主任の役割と責任の明確化 ③校長補佐、副教頭の業務の明確化と権限委譲	①業務の大枠は決まっているが責任分担が曖昧である。 ②校長の校務運営を支える意識が希薄であり、管理職と分掌長との組織的連動が急務である。校長が発する方針が組織的に徹底されていない。 ③副教頭の役割が明確にできなかった。
(4) 教員の指導力の向上	①授業評価アンケートの活用と授業改善 ②人事交流研修制度の構築 ③指導教諭の配置 ④アクティブラーニング等研究委員会活動の活性化	①アンケートデータ、主なコメントを教員個人に返却しているが活用は教員に委ねているのが現状である。 ②他校との人事交流を模索したが実現できていない。 ③管理職が新採用の教員に適宜指導を行っている。 ④コロナ禍以降活動できていない。
(5) 神戸親和大学との連携	①アクティブラーニング等共同研究の実施 ②教員研修への講師招聘	①共同研究はできていない。 ②2022年度と2023年度に講師を招聘した。
3. 生徒募集 (1) 入学者の安定的確保 (中学 180、高校 60)	①中学校・塾との関係強化 ②求める生徒像と入試制度 ③イベントの拡充 ④ホームページの充実	安定的確保はできていない。 ①主要塾とは常に情報交換できる体制は整っているが、中学訪問については訪問体制も構築できていない。 ②新コースにあわせて目標進路、人材育成方針を明確に設定した。入試方法も連

		動させた。 ③コロナ禍以降、土曜日の学校見学会を定例化した。高校入試のイベント設定が弱い。 ④経費抑制の面からホームページリニューアルは見送ってきたが 2024 年度に改訂することが決定している。
(2)多様な能力を持つ生徒の確保	①多様性特別選抜入試の充実 ②帰国子女受入れの拡大 ③指定校推薦提携校の拡充	①プレゼン入試、英語資格入試を導入しているが、出願者数は減少傾向にある。 ②日本人学校の開拓に努めたが、受入れの寮がない状況では効果は限定的である。 ③1校私立小学校と協定しているが適当な対象校はない。
(3)高校募集の充実	①中学校訪問の強化（認知度向上） ②コースの特色化	①教職員の全員体制で行うとの方針が示されていたが達成にはいたらなかった。 ②コース名称がわかりづらいとのことから名称を変更した。内容は変更していないことから大きなアピールにはつながらなかった。
(4)少子化、女子教育離れの現状認識の共有	教員研修会の実施	私学の入試状況、満足度を高める改善提案についての研修会を行い意識の啓発を行った。
(5)生徒寮の建設		財政的な理由から構想を見送った。
4. 学習支援		
(1) 学習支援	①ICT を活用した教育 ②ラーニングコモンズルームの活用	①タブレット全員保有（中学は GIGA スクール対応）により、授業及び自宅学習で活用している。 ②授業や放課後自習、グループワークで活用している。
(2)生徒指導	①モラル・マナー教育指導	高校では人権教育、中学生は道徳教育の中で指導している。
(3)奨学金	学習奨励生の基準の見直し	入試制度の変更にあわせて基準を見直した。強化クラブの募集にあわせてスポーツ奨励生の選考も行っている。
5. 進路指導		
(1)進路目標の設定	①難関国公立大現役 10 名、浪人 20 名、医学部 5 名、関関同立現役 100 名合格 ②国際コース指定校枠新規 5 校獲得	①目標数は現実と照らし見直す必要がある。 ②目標は達成できていない。
(2)新大学入試への対応	①英語 4 技能への対応 ②思考力・判断力・表現力・主体性・多様性・協働性の育成 ③校外活動の充実と灘区との連携強化	①中学では英会話の授業、高校ではオンライン英会話の授業を実践している。イングリッシュルームを設置し日常的に英語に接することができる環境を整えた。 ②探究により強化している。 総合型選抜入試の指導も強化している。 ③ボランティア活動を通じて体験の場を要している。
6. 国際教育		
(1)教育プログラムの充実		2023 年度からイギリス語学研修、ニュージーランドホームステイ研修、メルボルンマックロブ交換留学、異文化探究研修を再開した。2024 年度からはサイエンスツアーを実施する。

7. 校務運営・財務・人事 (1)教職員の意識改革	①危機意識の醸成 ②直面する教育課題への認識	①生徒募集の状況から現実には理解できていると思うが自意識的認識に欠ける。 ②不登校、いじめ、盗難事案等、状況把握と対応策を関係者で協議する必要がある。また、保護者対応を含め研修を実施した。
(2)評価体制の確立	①授業評価の在り方の検討と活用 ②考課制度の検討	①評価項目の精査、評価結果の活用を検討する。 ②評価方法と考課者研修が課題となる。
(3)財政健全化への取り組み	①生徒納付金、補助金収入の確保 ②寄付金収入の確保 ③人件費の抑制 ④教研費・管理経費の精査	①生徒数減少に歯止めがかからない。 ②保護者、卒業生、教職員、取引企業を対象に寄付を募集し、2021年度 10,178(千円)、2022年度 12,285(千円)、2023年度 12,705(千円)と増加している。 ③中長期採用計画と連動し教員数の調整を行う。 ④緊縮予算の中で調整している。
(4)人事方針の明確化	①中期採用計画の策定 ②長期採用計画の策定	①生徒数減少により策定見直しを行う。 ②検討に至っていない。
(5)労務管理	①時間外勤務の制限 ②休日出勤の管理(振休取得管理) ③部活動計画の管理	①退出時間の設定により勤務時間に制限を加えた。 ②休日勤務の抑制が課題。 ③一層の管理の徹底が望まれる。
8. 学校環境整備 (1)大規模改修工事計画の策定	①外壁改修工事 ②体育館屋根改修工事 ③緑化整備	①2023年度から3期に分け実施を計画しているが、老朽化による緊急工事、美観上の観点から2024年度に2期分を前倒しで実施を計画する。 ②2022年度に実施した。 ③正門の桜の木を植えかえた。
(2)教室改修工事	①講堂内LED照明取替工事 ②生徒ロッカー交換	①2023年度に計画の予定であったが先送りした。電気代の節電効果もあり再計画する。 ②生徒負担で順次取替工事実施中。
(3)その他	①デジタル案内板の設置 ②職員室・事務室のリニューアル(オープンドア化) ③神戸市西区からのスクールバス運行	①2021年度デジタルサイネージ2機を卒業記念品で設置した。 ②予算措置ができず先送り。 ③2020年から運航開始。
9. コース開発 (1)中学のコース改編	SSコースの設置	2024年度からSS/ST/GLの3コース制に改編した。
(2)中学Sコースの習熟度編成	中学Sa, Sbの編成	2021年度から実施した
(3)高校スポーツ・文化芸術系コースの設置	特進B(現:スポーツ・カルチャーコース)の新設	2021年度から実施した。

②2023年度事業計画の進捗・達成状況

神戸親和大学

1. 教務関係

2. 国際交流関係

- (1) 海外の大学、他教育機関との交流
2023年度はホーチミン市師範大学から2名の交換留学生の推薦があった。
- (2) 海外研修・留学
2022年度海外研修は、秋学期研修「海外芸術・教育研修」(18名参加)、「海外心理学研修」(6名参加)、長期研修の「特別派遣留学(カナダ)」(1名参加)、「特別派遣留学(韓国)」(1名参加)は実施した。
また、本学協定大学であるソウル女子大学提供の「オンライン短期集中韓国語プログラム」(単位配当なし)を実施し、1名が参加した。
- (3) 外国人留学生
 - ①新入学の留学生に学生生活指導実施(4月および日本入国時)
 - ②2024年度入学の留学生(国際文化学科25名、心理学科2名、児童教育学科3名、3年次編入学9名、大学院教育学専攻5名、科目等履修生(3+1と3+3)15名のうち、10名が入国制限措置が取られた時点で入国。それまではオンライン授業を提供する。

3. 地域交流・子育て支援関係

- (1) 公開講座
2023年度は、新型コロナウイルス感染症の緩和に伴い、春学期・秋学期ともにすべて対面形式で実施した。
- (2) 地域交流
 - ①地域交流プログラム
2023年度のキッズオープンキャンパスは2023年10月14日(土)に、予約制かつ午前・午後の二部制で開催した。参加学生約100名は5月エントリーから準備を進め、約800名の来場者を迎え実施した。また、地域の様々な祭りにも学生ボランティアが多数参加するなどコロナ禍で中止となっていたイベントにも大学として多く参画できるようになった。
 - ②神戸市北区との協力プログラム
2023年5月20日(土)に鈴蘭公園にて4年ぶりとなる「きたきたまつり」が開催され、ダンス部学生4名がダンスを、本学の田中・宮辻両教員とゼミ生13名が「きたきた!元気体操」を披露した。また、2023年2月10日(土)に、本学においてワークショップイベント「北区立体マップであそぼ!」を開催した。児童教育学科須増教員と学生13名が、午前と午後の2回ワークショップを行った。
 - ③ふれあい喫茶
高齢者の閉じこもり予防として、社会福祉法人神戸市社会福祉協議会と連携して、毎月第1水曜日に「ふれあい喫茶」を開催してきた。2023年度は第1水曜日に9回(5・8・1月を除く)実施した。また、地域の認知症者支援団体である「オレンジ110番」の協力事業団体として参加。
- (3) 学生ボランティア
地域の活動に加えて昨年に引き続いて神戸マラソンにもおよそ100名の学生ボランティアが参加するなど、一定の成果を得た。神戸市立森林植物園やエコー・リラのイベントにも音楽ゼミを中心に参加させていただいた。
- (4) 子育て支援ひろば『すくすく』
2008年1月に本学と神戸市が連携して開設した「子育て支援ひろば『すくすく』」も15年以上経ち、地域の方々に支えられ、延べ60,000人以上の親子に利用いただいた。学生ボランティアも延べ10,200人を超え、学びの場としての位置づけもコロナの収束とともに戻ってきた。また、「神戸市健康局健康企画課」、「おやこふらっとひろば北」と連携した離乳食セミナーを中心に、利用者のニーズに即した講座を数多く行った。
- (5) 大学コンソーシアムひょうご神戸の学生交流委員会
2023年度は理事校として、毎月開催される企画運営委員会に参加。昨年度に引き続き、私立大学等改革総合支援事業(タイプ3プラットフォーム型)に採択された。また、学生交流委員会

が実施した取組 1 WILL BE プロジェクト「テーマ型の学生交流プロジェクト」に本学学生が参加し優秀な成績をおさめた。

(6) 第 2 回北区ジュニアスポーツフェスティバル開催

NPO 法人親和スポーツネットが主催者となり、本学の学生有志が実行委員会を構成し計画から実行までを行った。こどもたちが多くのスポーツに触れ、体験できるイベントとして開催。メジャーなスポーツだけでなく、多くの競技に触れ合うことができ、地域のこどもたちに体験してもらえる機会を提供することを目的として、全 9 種目のうち午前、午後に分かれて複数のスポーツを体験してもらい、体験プログラムを実施した。参加者は 83 名、学生ボランティア 92 名の学生が競技指導にあたった。また、江崎グリコ株式会社様も協賛していただいた。

4. 学習教育総合センター関係

(図書館)

- (1) 年間の開館日数は、278 日、入館者数は 27,639 人、貸出冊数・貸出人数は 3,940 冊・1,708 人であった。
- (2) 資料は、図書・製本雑誌・視聴覚資料 計 707 件を受け入れた。
- (3) 学術情報の提供としては、当館からの依頼（当館利用者の他館資料利用依頼。照会を含む）26 件、他館からの受付 365 件の処理を行った。また入手可能な資料はできるだけ購入して当館利用者に提供した。また、2022 年度より国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの参加館となり、資料の閲覧・複写サービスを提供しており、1 件の利用があった。
- (4) 研究成果の保存と公開促進のため、本学紀要論文を刊行後速やかに本学リポジトリで公開した。
- (5) 環境整備としては、利用者が資料を探しやすくするため、引き続き書架の配架調整を行った。また蔵書点検で複数回不明だった資料や、重複資料・破損資料などの除籍を学習教育総合センター運営委員会の了承を得て行い、配架スペースの確保に努めた。
- (6) 広報・利用促進活動としては、開館期間中は毎月テーマを選定して展示を行い、ホームページでも発信をした。また利用者教育として、全 1 年次生に対し必修科目「基礎演習」内で図書館ツアーを行った。
また、「文献情報検索講座」は、3・4 年次の専門ゼミは 7 ゼミ 63 名、2 年次は、合同実施で 120 名に対して実施し、個人講座も 3 件の申し込みがあり実施した。

(情報処理教育・IT サポート)

- (1) 必携化オリエンテーションを全 2023 年度生に、実施した。内容は、パソコンを必携する目的、学内での利用ルール、学内ネットワークへの接続などである。
- (2) 遠隔形式・対面形式に関わらず、全授業において教材・資料や課題、提出物のデジタル化を進める大学方針の下、教員・学生のサポートを行った。
- (3) 学内のネットワークとサービスの安定運用を目的とし、「神戸親和大学ネットワーク増強計画第 2 期」を 2024 年度に実施すべく立案した。
- (4) センター講座
2022 年度からは、大学生協の Web 資格対策講座を推奨することとしている。2023 年度の受講生は 8 名に留まっており、今後検証していくこととなった。
- (5) ICT 活用を継続・推進するための情報環境整備【継続】
 - ・遠隔授業において、Microsoft365 の Teams を全授業で活用できるよう整備。
 - ・Office 無料配付を実施。Microsoft 社の制度を利用し、学生の個人 PC への Office の無料の配付を行っている。

(ラーニングcommons)

2016 年 3 月に開設されたラーニングcommonsは、通常の自習利用の他、グループ予約として、学生主催の勉強会・発表準備・プレゼンテーションの他、教員主催の勉強会、学科・各部署主催の催しで利用、また、各種セミナーや学科行事等にも利用されている。また語学力、ICT 活用能力向上の支援の場として定着することを目指しており、以下の企画講座を実施した。

- ・「文献検索講座」2 回
- ・「リニューアル英検問題対策講座」11 回

- ・「ICT スキルアップ講座」11回
- ・英語多読本活用イベントとして「しんわ洋書の森スタンプラリー」を図書館と共同で実施。
- ・年間開室 288 日(内、対面窓口 160 日、Zoom 窓口 66 日) 開館。

5. 国際教育研究センター

- (1) 国際教育フォーラム
2023 年度の国際教育フォーラムは新型コロナウイルス感染症の影響が残っていて、準備が出来なかったため開催を中止とした。
- (2) 言語交流サロン
留学生と日本人学生の交流を目的とした「言語交流サロン」を1週間に1回のペースで開催した。
- (3) 「英検セミナー／英語なんでも相談質」の実施(毎週木4、ラーニングコモンズにて学習教育総合センターと共催)
- (4) オンライン外国語教育研究会
実施せず。
- (5) 国際教育研究センター紀要
隔年発行のため 2023 年度は国際教育研究センター紀要の発刊はなし。次号は 2024 年度に発刊予定。

6. 研究成果

- (1) 「神戸親和女子大学 研究論叢 第 57 号」
- (2) 「児童教育学研究 第 43 号」
- (3) 「心理相談研究紀要 第 22 号」
- (4) 「教職課程・実習支援センター研究年報 第 6 号」

7. 入試関係

- (1) 2024 年度の入試結果
2024 年度入試では、共学化 2 年目に該当し、少子化の影響が心配されたが、定員 385 名に対して、入学者数が 469 名と昨年を 2 名上回る結果となった。入学定員充足率は 121.8%となった。このような結果となった主な要因は、①学校推薦型選抜の併願入試での入学者確保、②学校推薦型選抜指定校・協定校入試での入学者確保、③男子学生の確保だと考える。
①学校推薦型選抜の併願入試(教科科目型入試、面接型入試、資格活用型入試等)では 63 名を確保。昨年の 40 名に比べ約 1.58 倍となった。内訳は国際 7 名、心理 7 名、児教 37 名、スポーツ 12 名。
②学校推薦型選抜指定校・協定校入試は 170 名を確保。昨年の 156 名に比べ微増となった。内訳は国際 21 名、心理 13 名、教育 73 名、スポーツ 63 名。
③男子は全体で 190 名となった。また、女子も 279 名となり昨年の 309 名よりも減少した。昨年度の引き続き、男女共学への進学意識が高いことが伺える。

このような結果となったが男女共学に変革していくことに兵庫県内の高等学校、卒業生からの理解があり、このような結果となったと考えられる。専願入試比率が約 66.1%(310 名)と高いが今後もこの傾向を取り入れて、年内入試での早期確保をめざしていきたい。

- (2) オープンキャンパス
2024 年度募集(オープンキャンパス実施は 2023 年)は昨年と同じ回数を実施し、高校生、保護者と直接的な接点を持って大事に取り組むことを心がけ、「男女共学」後の大学の活発な学生の雰囲気や、女子大のころから継続している「面倒見のよさ」を強調したオープンキャンパス(以後、OC)を実施できた。OCでは、男子学生の協力を促進し、また学生広報スタッフでも毎回男子学生が参加できるよう調整した。
来場者数については、3月に実施したOCは参加者 229 名(生徒 114 名、保護者等 90 名)と

なり昨年の3月開催時の120名を大幅に上回る結果となったが、5月OC・6月OCは昨年度の参加者数を下回る結果となったため、開始早々危惧しながらのスタートとなった。その後の参加者は7月OCの開催から増え始め、男子生徒も多く参加するようになった。昨年の5月～9月開催分の参加者数を比較すると下記の様になった。

昨年：2,240名(生徒:1,224名、保護者等:1,016名)

今年：2,082名(生徒:1,114名、保護者等:968名)

今年度の傾向としては、高校3年生参加者数としては、昨年度よりも減少しており、高校1・2年生参加者数が増えている。コロナ禍が明け、夏休み中のOC参加を宿題にしている高等学校も増えており、低年次参加者が増えたと分析している。

まだまだ、課題はあるが次年度に向けて、さらに多くの高校生に本学の良さを知ってもらうため、昨年度同様の回数に加え、WEB広告配信やハウスリストに対するDM発送を中心に本学への進学意識を醸成させる施策を行っていく。

8. 就職関係

- 教職課程・実習支援センターでは、教職をめざす学生への実習指導や、キャリアセンターが行う講座以外に教員採用試験対策セミナーを実施し、教職への就職を支援している。公立教員採用試験合格者数は小学校63名、中学校(数)3名、特別支援学校2名であった。公立幼稚園教諭・保育教諭・保育士採用試験合格者数は9名であり、私立を含む幼稚園・保育園・認定こども園・児童福祉施設に就職をした学生は88名で100%就職先が決定した。
- キャリアセンターでは、一般企業や公務員、福祉施設を希望する学生に対してもガイダンスや多くの行事・講座において就職活動をサポートしている。個人面談等、きめ細かいサポートを行うことに特に力を注いでおり、教採・教育関係への就職を除いた一般企業等への就職状況は、業種別に、卸小売業、運輸業、ホテルやスポーツ施設等のサービス業、金融業、情報通信業への就職率がここ数年上位となっている。
- 厚生労働省と文部科学省の共同調査(2024年2月1日現在)による2023年度「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」では、大学生の内定率は91.6%で、前年度同期より0.7ポイント上がり、私立大学における内定率も90.8%であり前年度同期より1.0ポイント上がっている。本学の2024年度の全体の就職率は97.8%<前年度98.1%>となっている。(2024年5月1日現在)。

9. 奨学金関係

- 本学独自の奨学金制度を設けており、2023年度の実績は下表のとおりである。

(金額単位：千円)

奨学金制度の種類等		対象人数	給付・貸与金額
一般学生 を対象	授業料免除	5	4,350
	貸与奨学金	2	(注1) 1,305
	入学金免除(院)	9	1,800
	植田奨学金	0	0
	福祉特別貸与奨学金	0	0
	学習奨励・スポーツ奨励	121	76,975
	奨励奨学金、学長賞	22	1,160
	沖縄奨学金	0	0
	ファミリー・姉妹免除	23	4,170
	小計	182	89,760
留学生 を対象	所定の学習要件を充足した留学生に対する		
	授業料減免(大学院生)	30	2,160
	授業料減免(学部生)	99	25,839
	給付奨学金(大学院生)	26	4,420
	給付奨学金(学部生)	100	34,395
	住宅補助金	81	6,205
小計	336	73,019	

総 合 計	518	162,779
-------	-----	---------

注(1)2024年3月31日現在の貸与残高は29,466千円

(2)日本学生支援機構の奨学金については、貸与奨学金（無利子、有利子）および給付奨学金あわせて658名（延べ人数）が受給した。

10. 保健室関係

- (1) 定期健康診断
 - ① 受診者数 学生 1,403名 教職員 179名
 - ② 受診率 学生 98.4% 教職員 97.3%
- (2) 学生相談
 - ① 精神科校医、カウンセラー3名が心理相談に対応
 - ② 学生相談室のPRを目的に、年1回（10月）イベントの実施
 - ③ 学生相談室便りの発行
- (3) 保健室における応急対応
年間利用者数 679名
- (4) 教職員対象にインフルエンザ予防接種の集団接種実施
接種者数 58名

11. 課外教育活動関係

- (1) 文化・学術・体育・ボランティア活動や大学祭など、多岐にわたる学生の自主的活動については、学生生活における自立性・社会性の育成、学生相互の啓発等、人格形成上の教育効果を期待し、振興している。2020年度から発生した新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言の発出等もなくなり、課外活動の大会等は観覧などの制限をせずに開催される傾向となった。しかしながら文化総部の課外活動への参加学生が減少しており、部員数が少なく継続できず、廃部となるクラブも出てきている。
- (2) 体育総部の課外活動団体競技では、下記の結果となった。

<強化クラブ>

- ◆男子バレーボール部 関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦 6部1位
全勝優勝 5部昇格
- ◆男子バドミントン部 関西学生バドミントン秋季リーグ戦 4部2位 3部昇格
- ◆女子バレーボール部 2023年度関西大学バレーボール連盟女子春季リーグ戦
1部1位 全勝優勝
第70回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会 2023 ベスト8
- ◆ソフトボール部 第54回秋季関西学生ソフトボールリーグ 2部2位
- ◆サッカー部 関西学生女子サッカー秋季リーグ戦 2部優勝 1部昇格
- ◆女子バドミントン部 令和5年度関西学生バドミントン秋季リーグ戦 3部2位 2部昇格
- ◆バスケットボール部 関西学生女子バスケットボール秋季リーグ戦 2部7位
- ◆女子剣道部 第57回全日本女子学生剣道選手権大会 ベスト16 盛迫美玲（2年次生）
- ◆卓球部 令和5年度関西学生卓球秋季リーグ戦 3部5位

<クラブ、同好会>

- ◇相撲部 第11回国際女子相撲選抜 堺大会
 - 【団体戦】第2位 古瀬愛恵（3年次生）長門美咲（2年次生）田村仁愛（1年次生）
 - 【個人戦】第3位 長門美咲（2年次生）
 第10回全国学生女子相撲選手権大会
 - 【団体戦】第3位 古瀬愛恵（3年次生）長門美咲（2年次生）田村仁愛（1年次生）
 - 【個人戦】軽量級 第1位 古瀬愛恵（3年次生）
 - 軽量級 第3位 田村仁愛（1年次生）
 - 中量級 第2位 長門美咲（2年次生）
- ◇水泳同好会 関西学生選手権水泳競技大会 3部
川合篤志（1年次生）100m優勝 200m準優勝

1 2. 通信教育部

(1) 入学者数及び科目等履修生在籍者数

① 2023 年度入学者数

	4 月入学	10 月入学
児童教育学科	34	4
計	34	4

② 科目等履修生在籍者数 195 名

内訳：協定 26 大学中 18 大学 102 名、本学通学部 21 名、一般 4 月入学 45 名、一般 10 月入学 27 名

(2) スターリングの開講

期間：2023 年 4 月～2024 年 2 月

開講日数：78 日

開講科目数：延べ 98 科目

受講者数：延べ 1,053 名

(3) 科目修了試験の実施

期間：2023 年 4 月～2024 年 2 月

実施回数：12 回

受験者数：延べ 2,349 名

1 3. 大学評価関係

2021（令和 3）年度、公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）において、大学基準に適合しているとの認定（2029 年 3 月 31 日まで）を受けた。

2023 年度は、内部質保証推進会議を立ち上げるとともに、各部局別内部質保証委員会を設置した。合わせて認証評価結果への対応を盛り込みながら、大学評価委員会において検証を行った。また、自己点検・評価報告書をホームページで公表した。

I R 推進室を中心に、学修行動調査および満足度調査において共通する調査項目を用い、学修行動・学修成果の把握をディプロマ・ポリシーで定める能力に結び付け、学生にフィードバックする取り組みとループリックによる学修到達度の調査を実施した。

1 4. 附属親和幼稚園

認定こども園として 4 年目を迎えた。2023 年度は、5 月中旬よりコロナ感染症の規制がなくなり、少しずつ元の生活に戻りつつある。行事等では保護者参加において、規制をすることがなくなり子ども達の成長を見て頂けるようになり、共に成長を喜び合える機会が持てた。

教員の資質向上については昨年度から実施してきた研修会企画では前年度の反省を活かし、内容を工夫し、参加型の研修内容を企画、実施することができ、自分たちが何を学びたいか、どのように保育を展開していくかを考えながらの研修会となり、保育者としての成長につながっていると考える。研究保育研修会では、具体的な保育の場面を通して学び、活動の内容、保育者の援助、環境構成について等を考える機会となった。また、親和 3 園の経験年数別の合同研修会では他園の教育・保育の在り方に触れることができ、自分の保育の振り返りにつながった。7 月に実施された私立幼稚園協会の近畿地区研修会では研究発表する機会をいただき、本園での実践の在り方を考えたり、他園の取り組みについて学んだりすることができた。いろいろな研修を重ねることで資質向上につながっていると感じている。

保育内容については学年ごとの保育に加え、今年度も異年齢保育に取り組んだ。3、4 歳の異年齢保育では 4、5 歳児の異年齢とは違った姿が見られ、視野を広げ、環境を工夫することにより、子どもの成長が促されることに気づけた。保育の形態や内容、環境を引き続き工夫しながら、子どもと共に保育者自身も成長していけるよう取り組んでいきたい。

長時間保育については保育内容、保護者との連携など課題は見られるので、明確化し、職員全体での課題共有し、それぞれが自分の課題として、取り組んできた。特に怪我やトラブルの解決方法など方策を丁寧に協議し、次に活かせる方向に繋げてきたが、今後も引き続き、子どもたち

の安心できる環境となるように努めたい。環境面では長時間保育に伴い年次計画で1階保育室全室の床暖房設置が完了した。冬季も子どもたちが存分に活動できる環境に近づけたと考える。

なお、三田市も出生率の低下は大きく、園児数の減少につながっている。今後は魅力的な幼稚園作りや預かる子ども年齢等の検討を職員全員で探っていきたい。

親和女子高等学校・親和中学校

1. 学校経営方針・経営戦略

項目	目標	達成状況	評価
(1) 入学数の維持・確保	中学 170 名、高校 60 名	中学 107 名、高校 19 名	D
(2) 学校評価・授業評価	課題を自覚し組織的に改善	授業改善への取り組み不十分	C
(3) コースの教育開発	社会に呼応した特色化	新コースについては開発途上	B
(4) 少子化対策・将来構想	将来の方向性を議論	新コースに注力し議論は停滞	D
(5) 教員配置計画再考	分掌統合・執行部体制見直し	担任の分掌兼務、執行部見直しを 実行	B
(6) 教員評価制度	評価に基づく給与制度検討	教員褒賞金制度制定	C
(7) 理科実験室改修	収支の範囲内で改修	寄付により一部先行し予算化	C

S: 達成し成果が確認できた A: 達成できた B: 概ね達成できた C: 不十分 D: 未着手

【補足説明】

(1) について、学校の生徒数の回復を意図し、これからの時代を担う人材の育成をミッションとして、中学において3つの新コースに再編し募集に臨んだが、結果として、入学者は目標数から大きく減退し過去最低を更新した。高校についてもコース名称の改名を行ったが、コース・教育内容については従来と変わらない程度の変更であったことで特色化を打ち出すことはできなかった。

(2) について、昨年度に続き、「学校評価（保護者・生徒）」のアンケート調査を実施した。進学実績の不調からくる本校への期待感の低下、不安指数の増加も見られ、基本的な学習習慣の定着と進学に直結する成績の向上、適切な受験指導による実績の回復が望まれる。全体的な学力レベルが低下していく傾向がみられる中、地に足のついた学習指導と個に応じた丁寧な学習指導を行うため、放課後学習の必要性を感じている。また、授業に関するアンケート評価については、数字だけでなく、生徒の声に率直に耳を傾け教員自身が自分の授業の仕方などを振り返るとともに、他の教員の授業を相互に参観し、意見交換するなどの新しい対応策を講じる必要がある。

(3) について、コースのミッション・コースポリシーを実現するための特別なプログラムの開発、SSHを絡めたコースの教育内容を構築し、コース及び学校の特色化を進める必要がある。

(4) について、子供の数は12年後まで決まっている。本校が生き残り社会から必要な学校として認知されることが重要であり、早急な回復策を実行する必要があるところまで追い込まれていることを教職員が自覚し、本校の進むべき道と姿を決めることが必要である。新コースの結果に期待したところもあり、時間を要したが、少数で議論を継続するなどの手段はあったとも総括できる。

(5) について、校長の学校経営を補佐する管理職、執行部、部や学年の部長・主任、その所属の教員にまで伝わらず、過去の慣例にならった議論から脱却できない組織ともいえる。これを変える必要性があり、役職者が役割を自覚しチームで協働できる組織となることが求められている。その意味からも管理職、執行部体制を刷新することを決定し、役職者にも一定の調整役を担っていただくことから新規に役職手当を支給することも決定した。

(6) については、上記(5)が前提ではあるが、組織が組織として機能するために、学校の目標に基づく組織の目標が個人の目標へと伝播し、学校に大きな成果をもたらせる原動力となったとき、その個人を評価し相応の成果報酬を与えるなどの給与制度の導入が必要な状況にある。

(7) について、「理数重点化」、「SSH指定」を受けて、高中振興基金を活用した実験室のリニューアルを計画することが方針として決定している。

2. 教育に関する運営目標

項目	目標	達成状況	評価
(1) 新コースの開設準備	新プログラムの開発		B

(2) SSH の申請	SSH 認定	SSH 認可を受ける	A
(3) 適正な授業計画管理	シラバスの確認と公表	シラバスは公表されていない	D
(4) 指導と評価の一体化への共通理解	成績認定基準の設定、認定の在り方の見直し	成績評価基準、欠点の措置等の基準と対応、成績認定の考え方が共有できていない	C
(5) 教育課程の整備	コース改編により再考	一応の改編はできたが更なる検討が必要である	B
(6) 新学力向上	探究・国際理解・情報教育の推進	教科「情報」への一応の対応はできた	B
(7) 大学合格目標値設定、進路実績の向上への取り組み	難関国立大学 30 名、関関同立大 100 名の合格者	学年と連携し目標を達成できた。阪大・神戸大の合格者の底上げが課題	B
(8) 進路指導計画策定と実行	進路実績の向上、学年との情報共有	模試等の成績共有と状況把握はできた	B
(9) 進路説明会の実施	保護者への情報提供	保護者に丁寧の説明できた	B
(10) 部活動の適正な運用	学業との両立、働き方改革	週 2 日の活動休止、土日の活動に課題がある	C
(11) クラブの統廃合	クラブ数の削減	喫緊の課題であるが協議されていない	D
(12) クラブでの問題事案の減少	保護者や生徒からの問題事案の減少	バスケット、バレーボール、バドミントン部で指導上の問題行動があった	D
(13) 特別指導の減少	指導案件の減少、指導の徹底	特別指導案件に大きな増減はないが、盗難等の被害の報告が目立つ。指導等の対応が必要である。	C
(14) 校則・風紀・部則の検証	規則の適切性の検証と改正、廃止に向けた協議	不合理的な部則についての把握ができていない。	C
(15) 生徒満足度の向上	アンケート評価の向上	昨年度よりも評価の下がった学年があり、転学者数と関係がある。分析が急務である。	C
(16) 保護者との良好な関係の構築	意見・要望等の減少、面談対応	保護者からの意見・要望が増えてきている。三者面談を増回したが内容面を検証する必要がある。	C
(17) 学校行事暦の見直し	授業時数の確保、行事の意義の再認識	考査後の授業の実施など改善された。過去からの学校行事について意義を再確認する時期に来ていると思われる。	B
(18) 教員研修の企画	教員の資質向上	新コースの理解、部活動の意義と指導のありかたをテーマに実施した。	B
(19) 図書館利用者数	利用者数増加、ニーズの把握	新しい図書の充実が望まれる	C
(20) 探究活動の活性化	発表機会の設定、教員のファシリテート力の向上	他校との合同発表会等、計画通り実行できた。	B

S: 達成し成果が確認できた A: 達成できた B: 概ね達成できた C: 不十分 D: 未着手

3. 2024 年度大学入試合格実績

大学名		合格者数
国立大学	秋田大	1
	大阪大	2
	神戸大	1
	奈良女子大	1
	鳥取大	2
	岡山大	1
	広島大	1
	徳島大	4
	高知大	1
	九州大	1
	※ 防衛医科大学校	1
	※ 水産大学校	1
国立大学計		17
公立大学	長岡造形大	1
	都留文科大	1
	大阪公立大	2
	神戸市看護大	3
	兵庫県立大	7
	神戸市外大	1
	和歌山県立医大	1
	岡山県立大	2
公立大学計		18
国公立大学合計		35

※は文科省管轄外

海外の大学	2
専門学校（宝塚音楽学校 1 医療系 5）	6
短期大学	3
進学準備	12

大学名		合格者数
私立大学	神戸親和大	8
	立教大	3
	上智大	1
	早稲田大	1
	駒澤大	2
	同志社大	13
	立命館大	21
	関西大	34
	関西学院大	50
	近畿大	77
	甲南大	35
	龍谷大	6
	京都産業大	2
	京都薬科大	1
	大阪医薬大	7
	神戸薬科大	7
	兵庫医科大	5
	大阪歯科大	4
	神戸女学院大	40
	武庫川女子大	16
	神戸女子大	1
	甲南女子大	10
	京都女子大	6
	同志社女子大	6
	追手門学院大	7
	神戸学院大	28
	京都外大	1
	関西外大	15
	大阪経済大	3
	大阪工業大	3
	その他	80
	私立大学合計	

2024. 3. 31 現在判明分

【総括】

- （1）国公立大の合格者は 35 名（前年度 25 名、10 名増加）、関関同立大の合格者 118 名（前年度 92 名、26 名増加）であった。
- （2）阪大は 2 名、神戸大は 1 名の合格、医学部医学科は 3 名が合格した。

(3) 理系の系統別では、医療系 34 名（看護 13 名，薬 12 名など）、工学系 29 名、農水産系 8 名。

4. 2024 年度入試結果

【中学入試】

		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数		
					SS	ST	GL
前期Ⅰ	SS	31	28	12	24	43	40
	ST	12	11	20			
	GL	18	18	19			
前期Ⅱ	SS	154	152	46			
	ST (算数一教科)	38	37	92			
	GL (国語一教科)	65	65	65			
後期Ⅰ (探究入試型)	SS	26	26	11			
	ST	9	9	18			
	GL	5	5	7			
後期Ⅰ (教科型)	SS	73	71	20			
	ST	30	27	62			
	GL	31	31	31			
後期Ⅱ	SS	139	133	38			
	ST	34	30	95			
	GL	41	38	53			
後期Ⅲ	SS	16	11	6			
	ST	7	4	8			
	GL	12	5	4			
英語資格	GL	16	16	16			
総合型	ST	2	2	2			
	GL	2	2	2			
帰国子女入試	ST	0	0	0			
	GL	1	1	1			
合計		762	722	628			

【総括】

- (1) 志願者数は 762 名（前年度 801 名、39 名の減少）、受験者数は 722 名（前年度 744 名、22 名の減少）、合格者数は 628 名（前年度 625 名、3 名増加）であった。
- (2) 入学者数は、107 名（前年度 136 名、29 名の減少）であった。

【高校入試】

			受験者数	合格者数	入学者数		
					アドバンスト	スポ・カル	グローバル
1次	アドバンスト	専	6	6	10	6	3
		併	15	15			
	スポーツ・カルチャー	専	6	6			
		併	1	1			
	グローバル	専	1	1			
		併	7	7			
1.5次	アドバンスト	専	1	1			
		併	0	0			
	スポーツ・カルチャー	専	0	0			
		併	0	0			
	グローバル	専	0	0			
		併	0	0			
2次	アドバンスト	専	0	0			
	スポーツ・カルチャー	専	0	0			
	グローバル	専	0	0			
帰国子女入試	グローバル	専	1	1			
合計			38	38	入学者数計		19

※ グローバルコースにはこのほか
内部からのコース移動6名が加わる

【総括】

受験者数は38名（前年度52名、14名減少）合格者数も受験者数と同数、入学者数は19名（前年度27名、8名減少）であった。

【イベント動員状況】

- ① 中学入試説明会
4/25（土）77組 7/8（土）40組 9/17（日）76組 10/22（日）46組
- ② 高校入試説明会
9/17（日）11組 10/22（日）2組 11/26（日）8組 12/2（土）9組
- ③ 中高入試 塾対象説明会
6/29（木）本校実施
- ④ 学校見学会
原則毎週土曜日に午前・午後とも10組定員で開催
- ⑤ サマーオープンスクール 7/30（日）午前・午後 計282組
- ⑥ オープンハイスクール 10/7（土）15組
- ⑦ お父さんのための学校見学会 5/13（土）午前5組 午後9組 6/10（土）午前9組 午後2組
- ⑧ 新コース授業体験会 9/9（土）69組
- ⑨ プレテスト 11/3（金・祝）教科型288名 探究入試型105名
- ⑩ プレテスト追試 11/6（月）（プレテストと学校行事が重なっている受験希望者対象）69名
- ⑪ ワンポイントアドバイス説明会 11/26（日）82組

5. 2023 年度国際交流事業報告

- 6月 海外大学進学説明会
- 8月 高校2年生 イギリス パブリックスクール研修 13名参加 13日間
- 8月 学園主催 韓国大学訪問研修 高校生2名参加 4日間
- 9月 高校1年生2年生 豪州姉妹校 マックロバートソン女子高校 ホームステイ受け入れ (24名) 14日間
- 1月 中国東北師範大学附属中高 研修団受け入れ (20名) 3日間
- 2月 韓国 延世大学 入試説明会開催
- 3月 中学3年生 ニュージーランド研修ホームステイ研修 (37名) 14日間
- 中学3年生 アメリカ サイエンス研修 (15名) 9日間
- 中学3年生 豪州姉妹校 マックロバートソン女子高校 ホームステイ (14名) 13日間
- 中学3年生 英語キャンプ (8名) 3日間

6. 2023 年度部活動戦績報告

器楽部		第22回定期演奏会 バレンタイン・オーケストラコンサート	
コーラス部	高校	NHK全国音楽コンクール兵庫県大会 朝日合唱コンクール兵庫県大会 朝日合唱コンクール関西大会	銀賞 金賞 銀賞
	中学	朝日合唱コンクール兵庫県大会	銅賞
書道部		兵庫県高等学校総合文化祭 全国高等学校総合文化祭 私学の書展	推薦賞 一休園賞 呉竹賞 優秀校賞
生物部		KAP動植物環境活動発表会	最優秀賞
文学部		第47回兵庫県総合文化祭 文芸誌部門 表紙絵部門 短歌部門 俳句部門	優良賞 優良賞 優良賞 優良賞
放送部		NHK杯放送コンテスト	入賞 佳作3名
理化部		全国高等学校総合文化祭	出場
ソフトボール部	高校	神戸市春季大会 兵庫県高等学校総合体育大会 神戸市秋季練成大会 神戸市秋季大会 兵庫県新人大会	出場 出場 出場 出場 出場
	中学	神戸市中学総合体育大会 近畿私学大会 神戸市新人大会	出場 出場 出場
卓球部	高校	団体 県大会 新人戦個人 県大会	出場 出場
	中学	カデット 県大会 新人戦団体 県大会	出場 出場
ダンス部		第50回 六甲ファミリーまつり 第2回 KOBE AUTUMN FESTIVAL 2023	出演 出演

		第 66 回兵庫県学校ダンス研究発表 神戸マラソン 2023 応援ステージ 成徳まつり 淡路夢舞台ミニライブ 鉄人ダンスフェスティバル	出演 出演 出演 出演 出演
バスケットボール部	高校	神戸市民大会 兵庫県高等学校総合体育大会 全国高等学校バスケットボール選手権大会神戸地区予選 神戸市秋季大会リーグ戦 兵庫県高等学校新人選抜優勝大会	出場 出場 出場 出場 10位
	中学	神戸市新人戦	出場
バドミントン部	高校	兵庫県高等学校総合体育大会 団体 JOC兵庫県予選ジュニアの部 ダブルス JOC兵庫県予選ジュニアの部 ダブルス JOC兵庫県予選ジュニアの部 シングルス 兵庫県新人戦 シングルス 兵庫県新人戦 ダブルス 近畿大会	準優勝 準優勝 3位 3位 3位 3位 6名出場
	中学	兵庫県高等学校総合体育大会 シングルス 近畿大会 JOC兵庫県予選ジュニア新人の部 兵庫県新人戦 団体 兵庫県新人戦 シングルス 兵庫県新人戦 シングルス 兵庫県新人戦 ダブルス 兵庫県新人戦 ダブルス	準優勝 出場 優勝 優勝 優勝 3位 準優勝 3位
バレーボール部	高校	春季リーグ戦 2部 兵庫県総合体育大会 近畿総合体育大会 兵庫県選手権大会 秋季リーグ戦1部 近畿私立高等学校バレーボール大会 全国私立高等学校バレーボール大会 神戸市新人大会 兵庫県新人大会	1位 16位 出場 16位 2位 出場 出場 3位 出場
	中学	神戸市中学校春季優勝大会 神戸市総合体育大会	優勝 3位
陸上競技部		県総合体育大会神戸地区予選会 県ユース神戸地区予選会 神戸市総合体育大会	出場 出場 出場

西村佳世 (硬式テニス)	ITF (国際テニス連盟) ウィメンズワールドテニスツアー W15 MONASTIR (チュニジア開催) シングルス準優勝 第 59 回島津全日本室内テニス選手権大会 シングルス優勝
高倉真菜実 (バトントワリング)	国際大会 2024 PAN PACIFIC CUP Senior Women 's Two-Baton 優勝 Senior Woman' s Solo 第 4 位

施設等の状況

1. 主な施設の取得・改修又は処分の状況

1) 主な施設の取得関係

◇ 神戸親和大学

- ① 大学6号館トレーニング機器更新 一式 ※5年リース (金額：5,689千円)
- ② 大学附属親和幼稚園保育棟1階保育室(2室)床暖房工事 (金額：3,850千円)
- ③ 大学子育て支援ひろば「すくすく」床暖房敷設I期工事 (金額：1,898千円)

◇ 親和女子高等学校・親和中学校

- ① 体育館空調設備設置工事 (金額：7,150千円)
- ② 中央監視盤更新工事 (金額：7,480千円)
- ③ 中学棟普通教室プロジェクト更新工事 (金額：8,206千円)
- ④ 講堂緞帳更新 (金額：3,905千円)

2) 主な施設の処分関係

◇ 神戸親和大学

- ① 子育て支援ひろば床暖房敷設I期工事(2023年度)に伴う除却処分 ※一部除却
・資産番号20723001-000のうち鉄筋・鉄骨コンクリート造(一部)除却(建物) 取得額：992千円
- ② 大学備品「ノートパソコン」売却に伴う除却処分 ※全部除却
・資産番号22020038-000 FUJITSU LIFE BOOK WU2/D2 1台(教：備品) 取得額：138千円

◇ 親和女子高等学校・親和中学校

- ① 高中「講堂緞帳更新」に伴う除却処分 ※一部除却
・資産番号18832001-000のうち鉄筋コンクリート造(一部)除却(建物) 取得額：1,931.3千円
- ② 高中「中央監視盤更新」に伴う除却処分 ※全部除却
・資産番号20533028-000 中央監視盤全部除却(建物：電気設備) 取得額：5,490.42千円